

最年少15歳

元特攻隊員 反戦訴え

15日は終戦記念日……。全国最年少の15歳で特攻隊員となり、出撃直前に終戦を迎えた新発田市大手町に住む中村五郎さん(83)が、特攻隊員としての思いを語り継ぐ活動を続けている。16歳で辞世の歌を詠み、死を覚悟した夏から今年で67年目。反戦を若い世代に訴えている。

「当時は日本男児として自分の命をささげることが最高の荣誉だった。国家や国民のためならば、命は惜しくなかった」と振り返る。

出撃命令受け覚悟…終戦

中村さんは1929年3月、五男として滋賀県に生まれた。41年に同県立八日市中学校(当時)に進学し、学校の近くに陸軍航空隊があり、

中村さんは1929年3月、五男として滋賀県に生まれた。41年に同県立八日市中学校(当時)に進学し、学校の近くに陸軍航空隊があり、候補生になった。中村さんは

「機上ノ人トナルヤ 素早く離陸スル 六〇〇米モ上ルト 山々ハ マルテ 箱庭ノ 山ノ ヤウニ 小サク 平タイ」

一緒に訓練した仲間との記念撮影(中村さんは後列左から2番目、1945年5月撮影、中村さん提供)

44年8月1日、朝鮮半島で飛行機の基本操縦教習を始めた日には日記にこうつぶつた。45年5月29日、韓国・ソウルから別の特攻隊訓練基地に移動する際は、「雨ノ中ヲ

隊の経験や自分の人生を振り返る本を自費出版したことがきっかけだった。

地元の若手経営者との会合や会長を務める「新潟滋賀県人会」などで、出撃直前で終わった特攻隊の体験などを日記を基に伝えてきた。

中村さんは「自分は命を何とかつないだ人間で、特攻隊の経験が人生の原点。戦争を知らない世代に戦争は絶対にしてはいけないと伝えていきたい」と強調している。

見送り 才五二 励マシ合ヒ 感無量」と戦友との思い出を記した。

「君が為 何か惜しまむ若 桜 散りて甲斐ある 生命なりせば」



当時の階級章や写真を見ながら、特攻隊の思い出を語る中村さん

